

## もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	浜田技術センター	氏名	中島 剛
派遣先 団体名	浜田市美川公民館		
<p>① 研修の日時</p> <p>○芋煮会関係：11月11日11-12時、12日13-16時、15日8時半-16時、16日8-16時 しめ縄交流会関係：12月4日13時半-16時、18日9時-11時</p> <p>② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)</p> <p>○芋煮会</p> <p>11月11日(火)11-12時:挨拶のため、美川公民館でおこなわれた事前準備の会に参加した。実施団体である、美川山里を活かす会東地域代表の三浦一朋会長及び、実施をサポートする浜田市立美川公民館の平野公望館長から、美川山里を活かす会の活動内容や今年で第4回目となる芋煮会の趣旨を伺い、さらに芋煮会に向けての準備及び当日の段取りの説明を受けた。各役割の代表である方々総勢10名程度が集まり、終始和やかな雰囲気でおこなわれた。</p> <p>11月12日(水)13-14時:芋煮会がおこなわれる浜田市鍋石町の里山に集合し、男女合計約30名で150株の里芋掘り、一部の里芋の水洗い(事前に里芋コロッケを作るため)、そしてその他の収穫した里芋の仕分けをおこなった。美川町は里芋の産地として有名であったが、近年は世帯数も減少し耕作放棄地が増加しているとのこと。この畑もそのような一画であったところを、里山を活かす会のメンバーが開墾し、現在は8アールの立派な畑にされている。最初は里芋の小芋と親芋の区別が付かず、また芋の大きさにより用途を分別する仕分けに戸惑ったが、次第に要領がつかめていった。たくさんの里芋を次々に処理する中で、文字通り泥まみれになって作業した。</p> <p>その後、芋煮会でおこなう体験種まき用の畝作りをおこなった。長さ10m程の畝を5列作った。慣れない手つきでよたよたと鍬を振っていたが、周りの人の指導の下、なんとか無事に作業を終えた。</p> <p>11月15日(土)8時半-16時:美川公民館に集合し、テントや机、道案内の看板などをもって、鍋石の里山に行き、会場設営等の準備をおこなった。我々若手はテント設営を担当した。テントの組み立ては比較的重労働であり、また浜田水産高校職員の仁田さんがテントの組み立てに慣れておられたので、スムーズに作業がおこなえた。その後、小川で販売用の大根やニンジンを使った。午後からは、販売用の里芋の泥落としと袋詰め作業をおこなった。この日は日が射すと暖かく、終始和やかな雰囲気で作業をした。最後に、栗焼き用の場所作り(2m四方深さ30cm程度)をして終了した。</p> <p>11月16日(日)8時-16時:現地鍋石の会場に集合、まず芋煮用の大なべの設置から始め</p>			

た。これは昨年補助金を利用して購入したもので、釜はステンレス製、火力は風呂の給湯器と同等の性能を有し、50Lの水が 15 分程度で沸く立派なものだった。水の運搬を繰り返し準備を整えた後、担当の栗焼きの場所に向かった。行ってみると、既に燃えた火が 3m を超える高さに到達しており、まさに炎というに相応しい光景であった。火が収まると、炭の内部が赤く、表面が薄っすらと白くなったオキの状態になっていた。溝を作り、そこにアルミホイルでくるんだ栗、さつまいも、そして里芋を放り込み、さらに上からオキを被せた。栗の場合、待つこと 12 分で、表面の皮はカリカリ、中の実がふっくらとした焼き栗ができあがった。熱々のところをふーふーと冷ましながら食べる焼き栗のなんと甘いこと。大きさも立派で食べ答え十分だった。作るたびに試食といいながら何個もいただいた。もちろん焼き芋、里芋も絶品。焼き芋はとろけるように甘く、里芋は塩を少し振りかけて食べたら最高。これなら、皆さんに喜んでもらえること請け合いということで、準備も完了し、後 15 分程度で芋煮会開始となったところ、スタッフは先に芋煮を食べて腹ごしらえをするようにとの指示があった。行ってみると、大なべからもくもくと湯気が上がり、まさに芋煮ができあがったところだった。調理された女性の方々から、大きな器に里芋を始め、えのき、油揚げ、しいたけ、ごぼう、にんじん、大根、玉ねぎ、白菜、ねぎ、豚肉といった具がたっぷり入った熱々の汁をよそっていただいた。味噌味の加減もよく、粘りのあるほくほくの里芋がとってもおいしかった。

この日は天気もよくすぐ近くに植えられた紅葉が真っ赤に色づいており、早くからたくさんのお客さんが訪れた。芋煮の他、芋だんご、里芋コロッケ、里芋焼き(たこ焼きのたこの代わりに里芋を入れたもの)などが次々と完売していった。年齢層はお年寄りが 8 割以上で、稀に小学生以下の子供連れの親子が訪れた。栗焼きの場所は道路のすぐ脇にあるが、少し急な坂を下るためお年寄りには大変だったかもしれない。そのため、道路まで栗を持って上がり、来訪客にふるまった。下まで降りてくれたお客さんとは、火を囲みながら熱くて甘い栗に舌鼓を打った。ほとんどがスタッフの誰かと知り合いで、皆和気藹々とした雰囲気でも談笑していた。こちらも 13 時前にはほぼ完売となり、店じまいとした。その後、スタッフで集まっておにぎりを食べ、その後各自の持ち場の片付けをした。

#### ○芋煮会所感

毎日、作業開始前と開始後にはミーティングをおこない、作業内容の確認や段取り、そして注意点を三浦会長が的確に指示されていた。途中で分からないことが起きた場合も、必ず三浦会長に指示を仰ぎ作業内容を確認していた。三浦会長のリーダーシップの元、皆が協力して芋煮会を運営している様子が印象的だった。今回、作業を一所懸命おこない、慣れないながらも力仕事を率先して実行しようと意識した。同時に、山里を活かす会の皆さんとの交流を図るべく、いろいろなお話をさせていただいた。皆さんからも積極的に話しかけていただいたので、非常にやりやすかった。スタッフ皆の頑張りや天気に恵まれたことが今回の成功の原因だと思います。

#### ○しめ縄交流会

12月4日(木)13:30~16:00

美川公民館でしめ縄作りの事前講習会がおこなわれた。地域の方や浜田商業高校の学生が参加した。縄の編み方に始まり、みかん、裏白、ユズリハといった飾りの取り付け方を指導していただいた。芋煮会で面識のある方が多くおられ、終始和やかな雰囲気であった。作り方は簡単だが縄の編み方に熟練を要し、初心者がおこなう方法で進めたが案外力がいる作業だと感じた。これを小学校の低学年がおこなうのは難しいであろう。この日は2つ作って終了した。

12月18日(木)9:00~11:00

しめ縄交流会本番を迎えた。前日から大寒波が襲来しており、積雪が心配されたがほとんど影響はなかった。ちなみに、芋煮会がおこなわれた鍋石(さらに山手)は10cm くらいの積雪と聞いた。その代わり、会場である体育館は非常に寒かった。美川幼稚園、小学校、中学校が合同で参加し、今回で12回目を迎えたとのこと。この会は、春の田植えから始まる稲作体験の集大成に位置づけられている。生徒は約110名、指導に当たる地域の方々が50名という、島根県では他に例をみない規模(公民館長談)で開催された。

最初、技術室に集合し簡単な打ち合わせをおこない、定刻になって整列して体育館に移動した。正月飾りとしめ縄についての簡単な意味(由来)の説明を受けた後、実際にしめ縄作りが開始した。生徒は学年を縦割りにして12班に分かれ、そこに指導者が4名ついた。自分自身も2週間ぶりの2回目の作製であり、講師一人分の役割を果たせないため、指導者の補助に徹した。幼稚園児や小学校低学年は自力での作業は難しいので、手取り足取り手伝って何とか完成した。できあがるとみな喜んだ顔をしていた。最後に、集合写真を撮って会は終了した。

何回もおこなわれているため、段取りよく会が進行していたのが印象的であった。また、12年前と比べると生徒数は減少し、指導者の数も増えているようで、手厚い指導ができていたと感じた。手持ち無沙汰にしている生徒もいなかった。皆気持ちよく新年を迎えられるでしょう。

### ③ 研修の感想

これで、「もっと現場を知る!職員短期派遣研修」の全日程を終了した。公民館の事業である芋煮会やしめ縄交流会への参加は、産業技術センターの研究者という立場からすると通常の業務と大きくかけ離れた感があったかもしれない。その一方で私自身、仕事以外に地域住民としての立場があり、残念ながら普段の生活で、地域を支える地元の人々と接する機会はあまりない。今回県職員として、地域住民と近い距離で接しておられる公民館という現場を体験し、特に人口の減少に負けず地域を活性化しようとする懸命な取り組みに参加することができたのは貴重な体験だった。出会った方々一人ひとりの顔を思い浮かべ、共にした時間を思い出すと、自分が公務員として目指すべき勢が見えてくるように思う。島根県を元気にするため、島根県職員として企業や地域住民を精一杯支援するという意識を改めて強く感じさせられた研修となった。

### ④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。